

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500072		
法人名	吉村商工 株式会社		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地14		
自己評価作成日	令和4年8月11日	評価結果市町村受理日	令和4年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年9月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念を元に入居者に寄り添いその人らしく日常生活が送れるように援助を行っている。身体面、精神面の観察を行いながら初期病状の悪化を見逃すことのないように変化を予知し、また急変時に早急に医療機関へ相談できる体制を整えている。  
終末期に対しては入院より施設での希望を多くいただいている。医師、看護師との連携を密に取り最後までその人らしく穏やかに慣れた居室での環境を整えている。コロナ感染予防では利用者への手洗いまスクの声掛け、細目な換気をスタッフ全員で取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、理念とは別にスローガン(努力目標)を定め、職員全員でより具体的なケアの実践に努めている。利用者に対して、個々の人権を尊重した丁寧な言葉かけや低姿勢的な介護に努める一方で、職員の平均年齢が高く利用者もフレンドリーに接している場面も多く見られ、家族的で笑顔の絶えない環境である。家族からは、このホームで良かった。最後までこのホームで過ごさせたいとの意向にそった看取りに実績がある。コロナ感染症対策のため、面会を制限した利用者と家族が、電話やタブレット、多くの写真を用いてコミュニケーションを図っている。外出機会が少なくなっても室内に季節を表現する作品を掲示したり、四季の行事をゲームに取り入れている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は全職員暗記の元、利用者様中心の介護施設を目標に必ず取り組めるよう日々努めている。朝礼で唱和を行い実践できるように取り組んでいる。	企業理念は介護全体及び地域との連携の必要性を網羅しており、関連施設やホームも共通理念としている。その中で毎月強化するスローガン(努力目標)を定めて全員が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため外出や散歩の回数は少なくなっているが、庭先の散歩時に近隣の方々が声をかけて下さるようになり地域とのつながりを感じている。短時間でも屋外でコミュニケーションが取れるように工夫している。	ホーム周辺は新興住宅地で昼間不在の若い年齢層が多い地区で自治会加入者が少ない。ホーム便りを各戸に配布していたが、コロナ禍や不在時の対応を見直し2年前から中止し、現在は挨拶程度ではあるが途切れないように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方との窓越しのコミュニケーションをさせて頂いたり、運営推進会議を通して情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年よりコロナ禍のため運営推進会議を活用しながら取り組み状況を報告し、委員の方々の意見を今後の活動に活かし次回その結果報告を行う。	昨年は文書による会議だったが、今年度は推進員から顔の見える会議の希望が強く、敷地内にテントを張り感染対策を徹底して実施している。 出された地域の情報や意見をホームの運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも分からないところ等、市の担当者と連絡や相談を行いながら助言や指示を仰いでいる。	入居者に対応困難な状況があると、市担当者がホームを訪れ、スタッフと共に対応や助言が得られるので、スタッフも自信を持って困難な事例に対処する事が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフがされたくないと思う気持ちを持ち続ける事で介護支援は変わる。 身体拘束についての勉強会を行い、日々のケアが身体拘束につながらないか確認しながら取り組んでいる。	身体拘束の勉強会では、職員自らがされたくない事を拘束と捉え、全員がスピーチロックまで含めて、その弊害について理解している。身体拘束の無いケアに取り組み拘束は行っていない。	

宮崎県小林市 グループホーム「風の丘」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	お世話させて頂く精神で援助する側、される側の心理状態が行動への対応に表れるとの理解を高める事が大切である。適切でない言動、行動に対して普段より職員間で確認を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が1名入居されている。市の担当者に生活状況の報告等を行う。その都度状況変化があれば関係者と成年後見人制度について話し合いをしている。今回も制度の活用までは至らなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い家族や本人の不安や疑問、意向確認しながら納得頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時や電話の際に気軽に意見や要望いただける関係性が整っていた。コロナ禍により面会制限があった。タブレット導入により全員ではないが一部の利用者は面会や家族等の意見に反映できている。	コロナ禍にあつて、家族の面会が度々制限されるが、電話やタブレット活用及び多くの写真を提供し、家族の意向や希望の把握に努めている。家族から玄関のガラス越し面会でも、隣のわずかな開閉で声が聞こえる面会のヒントを得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて各職員の意見や要望を話し合っている。管理者から代表者への報告を通して運営に反映できるように取り組んでいる。	管理者は職員の意見や要望を代表者に報告するが、システム化されておらず臨機応変に実施している。関連の複数の施設間の代表者会議等もなく、職員は希望しているが実現には至っていない。	近年の介護関連の課題は多く、その中で複数の施設の状況を理解したり、合同研修会を実施して介護の質の向上を図ることを期待したい。また、代表者会議や全職員が企業の代表者と直接意見を交わす場を設け、共通理解を深める機会となることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自分の家族だったら」をモットーに居心地の良い職場づくりを全員が一つになり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けた職員の資料や研修ノートをまとめて参照する機会を設けている。全ての入居者の状況の報告、連絡、相談を徹底し仕事の基本として情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため連絡協議会などに参加できなかったが他施設との意見交換を通してつながりが持てるように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学では雰囲気、入居者、スタッフの印象等を確認して頂いている。不安なこと、本人や家族の要望を十分に聞きながら安心を確保できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後も家族の面会時において不安や要望などの有無を確認しながら話しやすい雰囲気づくりを心掛け、信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れて頂くために本人や家族の要望を聞き、関係機関との情報交換を行いながら日常生活の中で必要な支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に対しその人が好んでできる事を見つけ出し無理にではなく、やる気を出せる工夫を見出しながら生活を共にしている。 本人に対し「大切なあなたである」ことを知ってもらえるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら一緒に過ごす時間を設けたり、家族の状況を確認し受診の付き添い等の協力が得られている。 何気ない会話の中で不安や不満を探り、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染防止対策により面会、外出制限がある中、電話や手紙、タブレットを活用し関係が途切れないように工夫している。家族の面会は窓越しでの対面を行い近況も報告している。あじさい見学や馴染みの場所に出かけたり気分転換に努めている。	コロナ禍以前に、季節ごとに花見やレクリエーションで訪れた思い出の場所に、少人数でのドライブや車窓からの景色で回想する機会を作っている。職員は利用者が親しい人に電話や手紙を出すのを手伝って、関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立化しないように普段からようす伺いを行っている。年齢とともに入居者同士の関係も冷めてくるので目配り気配りを行い職員が仲介に入りながら笑顔が保てる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の方へ近況報告を通して、必要時はいつでも電話相談して頂けるように関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの生活スタイルも見えてきている中、表情を観察している。日常会話や行動する中から意向を把握し希望に添える暮らし方ができているか検討するようにしている。	利用者や家族からの聞き取りやセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)のシートを一部使用したり、日々の表情や日常会話、行動から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報により情報収集を行いこれまでの生活環境の把握に努めている。 ご家族からの情報も含めて職員間で共有し支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居年数に応じ個々の暮らし方や体調の変化も把握できるようになり、日常会話や支援を通して利用者の様々な変化や状態を記録に残し情報共有することで職員同士の協力体制が深まっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員が三味一体となり要望や意見を聞き、定期的に評価を行いながら介護に反映させている。	本人や家族の意向を踏まえ、残存機能が活用され自立が妨げられていないものであるか、全職員で検討した介護計画を作成している。必要に応じてモニタリングを行い、3～6か月毎に見直しを行い対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の様子を個別記録に記入し気付いた点については申し送りや業務日誌等を活用し職員間で情報共有を行い見直しやケアに活かしている。		

宮崎県小林市 グループホーム「風の丘」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に合わせ必要に応じて他事業所との連携を図りながら、その時々での最善の方法で要望に応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の本やCDを活用しながら利用者への人生を振り返り、思い出話やこれからの人生について語り合うなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携を密に取り、月一回の訪問診療も実施している。必要に応じ医師より家族へ直接連絡してもらい適切な医療が受けられる体制作りが整っている。本人や家族の希望があれば、歯科、眼科、皮膚科、泌尿器科への受診にも対応している。	利用者全員が協力医がかかりつけ医となっている。毎月協力医による訪問診療が行われている。協力医とは必要に応じて連携が図られている。他科受診の際は家族の協力もあり受診支援が行われ適切な医療が受けられる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等、不安に思うことがある場合は、すぐに協力医の看護師へ連絡相談することができる。入居者の変化に早く気付け、スムーズな受診や医師からの指示がある。医療面や不安な事にも相談ができる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを利用し情報提供を行っている。コロナ禍により面会はできないが病院関係者や家族より情報を収集できるようにしている。退院後も病院関係者との連絡を密に取り、情報交換を行い相談できる体制を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看取りについて必要に応じ協議をしておき、入居時に本人、家族の終末期への意思確認書の整備を行っている。終末期に向けて医師や看護師と密に連携を図り、本人や家族が安心して、穏やかに考えられる終末期に近づけるように体制を強化している。	入居時に意思確認書を取り、随時話し合いが行われている。協力医や看護師との連携も図られている。看取りも行っており、重度化や終末期のあり方についての体制作りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医との連携を含め緊急時のマニュアルを作成し全員が把握できるようにしている。消防機関と講習会を利用し緊急時、初期対応や事故発生時の連絡網も作成し連絡体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通して地域の民生委員、消防団の協力確認は得られている。防災、消防署員立会避難訓練を定期的に行っているが、コロナ禍で地域の方の参加は難しいが日々生活する中で近隣の方と笑顔の会話を心掛けている。	年2回の避難訓練が行われている。民生委員や消防団との協力確認も行われているが、コロナ禍でもあり訓練時の民生委員、消防団の参加協力が難しい状況であり、地域の協力体制がとられていない。	日常的な地域との繋がりの中で避難訓練における地域の協力体制の構築が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格の尊重を重視し、誇りやプライバシーを損ねないように日頃より配慮しながら分かりやすい言葉で対応している。	言葉使いや介護の低姿勢に心掛け、個々の人格の尊重を重視している。排泄時や入浴時等もカーテンでの保護や無断で覗かないことなど言葉掛けを行い、プライバシーの確保にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方へはゆっくりとはっきりした言葉で話しかけ、意思疎通を図りながら本人の思いが聞けるように対応している。自己決定の場面においては本人が決定しやすい環境づくりを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ無理強いないように、本人のペースに合わせ寄り添う事を大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を生かしたおしゃれができている。自分でする事が困難な方には、その方の好みを一緒に選んだりしておしゃれを楽しむ。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に合わせた食事形態(お粥/ミキサー食)を工夫している。できる方にはエプロンたたみテーブル拭き等一緒に行っている。	入居者の状態や体調に合わせた食形態となっている。入居者もお盆拭きやテーブル拭き、エプロンたたみなどに参加し、一緒に食事を楽しむことができる支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事形態の工夫を行っている。必要時は食事介助を行う事もある。食事量や水分量の摂取量については記録に残し、体調管理、健康状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下防止のため、あいうべ体操、パタカラ体操を行っている。毎食後の声掛けし口腔ケアを実施している。義歯や歯磨きの不十分な所は支援を行い対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。トイレの誘導や声掛けを行い生活の中で失禁が減らせるように取り組んでいる。車いすの方には下肢筋力低下を抑制できるように、トイレでの立ち上がりや移乗ができるような働きかけを行っている。	排泄チェック表を利用し定期的に声掛け誘導を行っている。日中は8名の入居者がトイレでの排泄を行っている。オムツからリハパンツへ変更になった入居者もあり、自立にむけた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で個々の一日の排泄状況を把握している。水分不足の方には工夫した水分により補水ができています。便秘の方には状態に応じて担当医に相談し便秘予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者に応じた入浴支援を行えるように個々の気持ちを大切にしている。拒否がある方やその日の体調や本人のペースに合わせて日時変更しながら気持ちよく入浴できるように支援をしている。	1日3名程度ずつ計画し、入居者が希望する時間帯に入浴する、本人のペースに合わせた入浴支援を行っている。毎日入浴する入居者もいる。拒否があれば無理強いせず言葉掛けを工夫しながら入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼食後に仮眠を軽く取り夜に備えている。その日の体調にあわせて昼夜逆転しないように心掛けている。目や耳など音に馴染ませ良眠できるように日中の生活を考えて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時に入居者と一緒に名前、日付を声に出して確認を行っている。服薬セットは二重・三重にチェックを行い管理している。薬性はファイル、服薬変更時は、その都度記録に残し職員間で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物には名前を大きく表示している。洗濯物は上向きに畳んで頂き収納に助かっている。		

宮崎県小林市 グループホーム「風の丘」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が減っている。あじさい見学や桜の花見ドライブで季節感を味わってもらえるように支援に努めている。天気の良い日は庭先や近隣の散歩へ出かけられるように心掛けている。	コロナ禍にて外出機会は減っているが、日常的に庭先に出て野草を見に行ったり摘んだり、近隣を散歩したりしている。あじさい見学や桜の花見にドライブに出かけるなど日常的な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の出納帳を施設で管理している。小口現金を所持されている方もおられる。認知症があり管理が難しい方が多いが、本人の希望があれば必要に応じていつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも対応できるようにしている。居室の場合は職員の携帯でやり取りさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍により消毒、換気、掃除、温度調節には十分注意を払い感染予防に努めている。季節を味わってもらい草・木・花などを飾り心地良い空間づくりを行っている。	コロナ禍もあり消毒や換気には十分に気を付けている。共用空間には草・木や創作物を飾り季節感が味わえるようにしている。季節に応じたレクリエーション等も行い居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き入居者同士の関係性に配慮しながら座っていただいている。第二ホールにもテレビと椅子を設置し外を眺めたりと自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅と同じように穏やかに過ごせる居室づくりを一緒に行っている。仏壇を持っている方には花を欠かす事のないように気配りをしている。	職員は自宅と同じように過ごせるように一緒に部屋作りを行っている。仏壇の持ち込みもありお供えを毎日行っている。人形や家具など使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人の状況に合わせている。動線には物が無いように配慮したり、手すりを各所に設置したりとできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。バリアフリーで車いすもスムーズに移動できるように環境を整え工夫している。		